



変形性膝関節症予防に向けた若年女性の膝関節機能調査

キーワード

変形性膝関節症, 女性, 関節弛緩性, 予防リハビリテーション

研究内容

変形性膝関節症（Knee Osteoarthritis : KOA）は、40歳以上の有病率が男性 42.6%、女性 62.4%と推定されており、健康寿命に影響する疾患です。加齢に伴い発症する疾患ですが、予防という観点では若年期に着目した基礎的知見が重要であると考えています。

私たちは、特に若年女性の膝関節機能に着目し、その理解を深めるために様々な研究を実施しています。これまでに、大腿骨頸部前捻角と既往歴の関係、反張膝と身体活動量の関係などを調査し、現在は KOA の危険因子である関節弛緩性に対する月経周期と性ホルモンの影響を中心に調査を進めています。



膝関節弛緩性を測定する機器

関係論文、特許・著作物等の知財情報、連携の実績

- ・米津亮, 畑野杏奈, 森下佑里, 田中繁治「スマートフォンを用いた反張膝の測定方法に対する予備的研究－理学療法士学生による検者間信頼性の検討－」保健医療学雑誌, 2022; 14(1): 7-11.
- ・福本実鈴, 濱埜美羽, 安井和奏, 鈴木日菜, 米津亮, 森下佑里「女子大学生における大腿骨頸部前捻角と膝関節既往歴の関連性調査」保健医療学雑誌, 2023; 14 (2):101-107.
- ・安井和奏, 平田恵介, 後藤寛司, 森下佑里「月経周期における膝関節弛緩性と剛性特性の変化」理学療法 - 臨床・研究・教育, 2024; 31 (1): 50-54.

社会連携・産学連携の可能性

女性の有病率が高い膝前十字靭帯損傷や KOA の予防に貢献する基礎データの提供や共同研究が可能です。